

化学

2022年度共通テスト本試験について

- 大問数は5のまま変動はありませんでしたが、マーク数は4増え、実質の解答数も29と2021年度よりも増加しました。2021年度に続いて、個別試験レベルの問題が出題されたり、吟味に時間を要する正誤問題が多かったりしたため、2021年度を上回る負担感の試験となりました。
- 数値を桁ごとに解答する問題が2問出題されました。一方、前回出題された方眼紙を用いる問題は今回出題されず、また前問連動型の問題、実験レポートを題材とした問題も、出題されませんでした。

過去3回の出題内容

難易度 A: やや易 B: 標準 C: やや難

大問	2022年度本試験		2021年度本試験第1日程		2021年度本試験第2日程	
	出題内容	難易度	出題内容	難易度	出題内容	難易度
1	理論分野/電子配置、モル質量、気体の性質、非晶質、気体の溶解度	B	理論分野/結晶、溶液、気体の性質	B	理論分野/結合、気体の性質、コロイド、クロマトグラフィー	C
2	理論分野/熱化学、電離平衡、反応速度と化学平衡、物質質量、燃料電池	B	理論分野/化学反応と光、電池、物質の三態、熱化学	B	理論分野/金属のイオン化傾向、緩衝液、熱化学、活性化エネルギー、化学反応の量的関係	B
3	理論分野・無機分野/金属イオンの反応、物質質量、アンモニアソーダ法	A	無機分野/金属元素、化学反応の量的関係	C	無機分野/金属元素、非金属元素、化学平衡	B
4	有機分野/脂肪族化合物、異性体、高分子化合物	C	有機分野/脂肪族化合物、芳香族化合物、高分子化合物	B	有機分野/脂肪族化合物、芳香族化合物、高分子化合物	B
5	理論分野・有機分野/アルケンのオゾン分解、熱化学、反応速度	C	理論分野・有機分野/反応速度、化学平衡、化学反応の量的関係、糖類	C	理論分野/化学反応の量的関係、中和滴定	C

パワーマックス 化学 出題一覧

新: 新規収録 / 難易度 A: やや易 B: 標準 C: やや難

第1回			
大問	出題内容	解答目安時間	難易度
1	新 理論分野/分子の形・極性、結晶、気体、溶液の性質	13分	B
2	新 理論分野/反応速度、熱化学、電池	11分	C
3	新 無機分野/ハロゲン、非金属元素、金属元素、水溶液の識別	12分	B
4	新 有機分野/有機反応の種類、脂肪族化合物、アゾ染料の合成、高分子化合物	11分	B
5	新 理論分野/熱化学、溶液内の平衡	13分	B

第2回			第3回				
大問	出題内容	解答目安時間	難易度	大問	出題内容	解答目安時間	難易度
1	理論分野/原子の構造、結晶、気体	13分	B	1	理論分野/結合・結晶、気体、希薄溶液の性質	13分	C
2	理論分野/熱化学、電池・電気分解、反応速度、活性化エネルギー	12分	B	2	理論分野/熱化学、電池、化学平衡	12分	C
3	無機分野/周期表、非金属元素、沈殿生成反応、気体の発生法	11分	A	3	無機分野/アルカリ金属、沈殿生成反応、気体の性質	11分	B
4	有機分野/異性体、脂肪族化合物、アニリンの合成、高分子化合物、天然有機化合物	12分	B	4	有機分野/脂肪族化合物、異性体、高分子化合物、芳香族化合物	12分	B
5	理論分野/溶液内の平衡	12分	A	5	理論分野/気体反応の平衡	12分	B

第4回			第5回				
大問	出題内容	解答目安時間	難易度	大問	出題内容	解答目安時間	難易度
1	理論分野/結晶、溶解度、希薄溶液の性質、炭酸カルシウムの熱分解	12分	B	1	理論分野/溶解度、結晶、気体、コロイド、反応速度	13分	C
2	理論分野/熱化学、電池、反応速度、溶液内平衡	12分	B	2	無機分野/電池、典型元素、金属イオンの性質、身のまわりの化学	13分	B
3	無機分野/気体の発生法と性質、金属の同定、身のまわりの化学	10分	B	3	有機分野/脂肪族化合物、芳香族化合物	13分	B
4	有機分野/脂肪族化合物、芳香族化合物、高分子化合物	13分	C	4	理論分野/酸化還元滴定	12分	C
5	理論分野/沈殿滴定	13分	C	5	有機分野/高分子化合物	9分	B

パワーマックスについて

編集方針

- 2022年度、2021年度本試験に合わせた形式の模試を1本増加させ、4本掲載。第1回試行調査に合わせた形式の模試1本とあわせて、計5本掲載
- さまざまな出題形式に対応できるよう、最新の本試験だけでなく、試行調査で出題された形式も盛り込んだZ会オリジナル問題

書籍の特徴

- 第1回～第4回は2022年度、2021年度の本試験、第5回は第1回試行調査の形式に対応しています。なお、第5回を含め、すべての回で解答番号は全問通し番号としてあります。
- 計算問題の数値を桁ごとに答える問題、グラフ描画問題、前問連動型問題、大問形式の問題など、共通テストで新しく導入された出題形式の問題を取り入れ、1冊を通じて対策できるようになっています(1つの解答番号に複数のマークを行う問題は、出題していません)。